

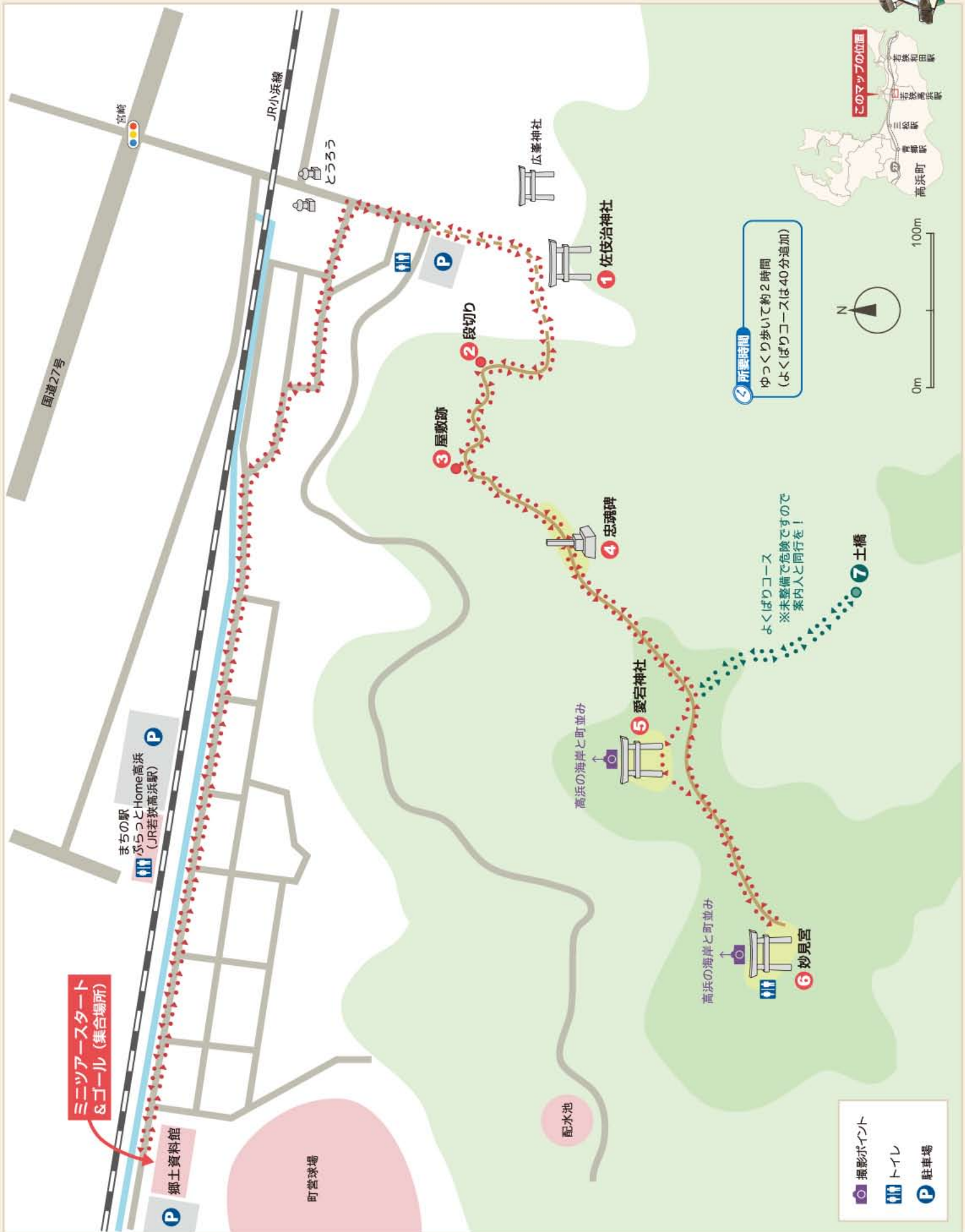
5 北斗七星に彩られた若狭一の山城「碎導山城・妙見山」

さいち やまじょう みょうけんさん

若狭はかほ
ドコイコ!
ナニショ!
ミニツア-



かつて若狭一の勢力を誇った逸見氏の居城「碎導山城」と北斗七星に彩られた「妙見山」のまち歩きです。郷土資料館にもぜひ立ち寄って、高浜の文化遺産を学んでみてください。



5 北斗七星に彩られた若狭一の山城「碎導山城・妙見山」

さいち やまじょう みょうけんさん

若狭たかはま
ドコイコ!
ナニシヨ!
ミニツア-



かつて若狭一の勢力を誇った逸見氏の居城「碎導山城」と北斗七星に彩られた「妙見山」のまち歩きです。郷土資料館にもぜひ立ち寄って、高浜の文化遺産を学んでみてください。

1 佐伎治神社(さきちじんじや)

創建は1800年以上昔とされる佐伎治神社。『式年大祭』は、通称『七年祭』ともいわれ、7年ごとの巳(み)年と亥(い)年、旧暦6月卯の日から酉の日まで、7日間にわたって繰り広げられる古式ゆかしい神事です。この七年祭の起源は古く桃山時代までさかのぼり、京都の祇園祭りをルーツとする若狭でも最大級の夏祭りです。



2 段切り(だんざり)

「城」は「土から成る」と書くように、中世の城のほとんどが山や丘の頂上や尾根筋を利用して造られていました。ここ碎導山城も山城として建造され、防御のために「段切り」が造られました。「段切り」とは、山の斜面を階段状(ひな壇の様)に成形し、敵がよじ登ろうとするところを、上から迎え撃てるようにしたものです。



3 屋敷跡

碎導山城の屋敷があったとされる跡地です。建物は残っていませんが、大きな平場があり、北側に広がる市街地を見渡すこともできます。防御の要となる「段切り」の上部に位置し、東側から攻めてくるであろう敵に備えていたのでしょうか。



4 忠魂碑(ちゅうこんひ)

日清・日露・大東亜戦争での御霊をまつた碑。忠魂碑の両側には、砲弾を使った石柱が設置されています。また、桜のきれいな広場からは、高浜の町並みを見ることもでき、桜が満開になる春には、ぜひ訪れていただきたい場所の一つです。



5 愛宕神社(あたごじんじや)

妙見山の中腹、標高約118mに建っています。社のさい銭箱は少し用心深いのでしょうか、扉をくり抜き、ちょっとおもしろい形状をしています。休憩も兼ねて、お参りしてみてください。また、絶景の景色に出会える場所です。それは、まるで「若狭松島」と例えられるような、海と小島と海岸線の雄大さを感じずにいられない景色です。



6 妙見宮(みょうけんぐう)

妙見山は高浜市街地の南側に位置し、標高約143m、山頂に妙見堂(室町時代の逸見駿河守の重臣である高木陣太夫が開基)が残っています。灯台のような灯籠と、静寂の中にたたずむ鳥居が出迎えてくれます。また、高浜地区の全貌を眺望、海を隔てて越前岬を遠望する眺めは実に美しく、夏の夜、沖合いに漁り火の点滅する景色は、他にはない感動があります。



7 土橋(どばし)

「土橋」は、城の防御のための土で出来た橋です。浅い谷を掘り、その土で谷に人が一人だけ通れる橋を造ります。これがあれば、敵が大勢で攻めてきても通行できる人数に限られるため、少人数でも守りやすくなるのです。



稜線と北斗七星の類似性

密教占星学では、北辰・北斗・妙見は欠かすことのできないものといわれています。北辰は北極星・北斗は北斗七星・妙見は北極星を神格化し、菩薩に見立てたものです。高浜地区を見下ろす妙見山の稜線をたどってみると、なんと北斗七星が浮かび上がってきます。それを証明するかのよう、妙見宮には北斗七星を模した瓦が使われていました。



木造妙見大菩薩立像